

来年は全国相撲 甚句大会を 飯南町で開催

相撲甚句とは、相撲巡業の折に力士が土俵上で披露する唄のことです。この町に野見宿禰を縁にと立ち上げた「野見宿禰赤名相撲甚句会」は、来年10月に全国大会開催を誘致されました。人気の高い大相撲の始祖としての情報発信が期待されます。

甚句会発足の経緯は

会長 赤穴 憲一さん(下赤名)
大麻蹴速(たいまのけはや)との戦いに勝利し、日本一の力士となった相撲の元祖、野見宿禰のみのすくねゆかりの地が飯南町の上赤名であることを基にして甚句の会を立ち上げ、現在会員数は11人です。
平成30年には、第11回全国相撲甚句大会が本町で開催されることが決まっています。約200人の関係者の来町があると見込まれます。



赤穴 憲一会長にインタビューする高校生

平成23年2月に設立し、これまで59回公演を行ってきましたが、創立10年程度の会が全国大会を受けるのは初めてということなので、万全の体制で臨み成功させたいものです。

今後の夢は

叶うものならば、新横綱「稀勢の里」の奉納土俵入りが両国の野見宿禰神社で行われる時、我々も甚句を奉納したい。また、神社に本町の大注連縄を奉納できれば最高です。そうなれば前夜祭に国技館の大舞台で甚句を披露することが出来るかもしれないですね。
町民の皆さんには、野見宿禰のような偉人が本町にいたことを知ってもらいたい。宿禰の顕彰碑や土俵を作って相撲文化の再興を図りたいものです。また、地方巡業で、本町で大相撲の開催が出来れば最高だと夢を広げています。

岸 光研さん(頓原) 甚句会との縁は

銀山街道を訪ねる会にも参加していますが、旧町の頃から行政の枠を超えて交流を図っています。社会貢献をすることで地域との関係を深め、仕事をさせてもらっているという思いがあります。
毎月2回の練習を行っています。冬以外は山根先生に指導をいただいています。最近では年10回位出演の依頼があり、出張公演に行きます。
来年10月の全国大会を目指し、1年かけて大会の準備と声に



岸 光研さん

磨きをかけていくつもりです。大会開催中は町中の人に甚句を聞いてもらい、楽しんでもらいたいと思います。
趣味としても楽しいので、頓原や志々の皆さんにも入会してもらい、一緒に甚句を楽しめるようになればよいと思っています。

今月の表紙写真



静かな町に、相撲甚句の発声が会場に響き渡っていました。この日の練習は、指導の先生を含め10名。来年この町で開催される全国大会に向けて、それぞれが持つ音域のクオリティーを高めるために切磋琢磨されています。腹の底から発声する甚句は健康にも寄与するとあるようで、会員の顔色はとて素晴らしい感じで輝いていました。子どもは町の宝ですが、新しい宝として「おじさん」「おばさん」たちの活躍が期待されます。

編集後記

TPP問題は一難さってまた一難という状況ですが、農家の所得向上に向けて不断の努力が求められています。今までもおりの日々を送っていても農業を取り巻く環境が好転することはありえません。農家自身が目のうるこを自ら剥ぎ取る勇気が必要です。心を空しくしてもう一度考えようではありませんか。

この広報が皆さんの手に届くころには、田植の支度に忙しくされていることでしょう。この田植という作業は何世紀も前から当たり前の農村風景であり、手から乗用機械に変わっただけのわずかな変化があっただけです。

これから農業は、この当たり前すら白紙にして一から考え直す必要に迫られることになるかもしれません。
どのような変化が訪れようとも、われわれ議員は町民の皆さんに寄り添ってまいります。

これからもご指導ご鞭撻いただきますようお願いいたします。

議会広報編集委員会 門 眞一郎